



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第131号

2014.12.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- ー冬期休館について
- ーハカセ喫茶のご案内

活動報告

- ーゴギの繁殖観察会
- ー八幡高原の野鳥観察会

観察会案内

- ー冬をいきる動物たちの生態
- ー雪原のトレッキング
- ー早春のトレッキング

お し ら せ

●冬期休館のお知らせ

高原の自然館は冬期休館中です。休館期間と連絡先は以下の通りです。

冬期休館期間：11月25日～4月24日
休館中連絡先：北広島町役場芸北支所2階
高原の自然館研究室

〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田75

TEL：080-6334-8601

FAX：0826-35-0386

E-mail：staff@shizenkan.info

※平日（月～金）の9:00～17:00まで

※年末年始のお休み：12月27日（土）～1月4日（日）

●ハカセ喫茶のご案内

西中国山地自然史研究会では、自然の話を聞きながら、お茶とお菓子を楽しむ会in八幡高原を開催しています。

各分野のハカセ（専門家）に自然科学の話をいただき、和やかな雰囲気でお茶やお菓子をいただきながら、楽しむサイエンスカフェで「ハカセ喫茶」と名付けました。これまで、「宇宙」「熱帯雨林」をテーマに開催しました。今後も様々なゲストを迎えて、継続する予定です。

詳しい情報は、西中国山地自然史研究会のホームページ、またはハカセ喫茶のページでご確認下さい。

NPO法人西中国山地自然史研究会ホームページ：

<http://np0.shizenkan.info>

ハカセ喫茶 Facebook：

<https://www.facebook.com/cafe.hakase>

観 察 会 報 告

●ゴギの繁殖観察会

開催日時：2014年11月9日（日）9:30

講師：内藤順一

小雨が降り、濡れた紅葉が美しく映る中、ゴギの繁殖観察会が実施されました。今回の講師は、淡水魚類の専門家である内藤先生です。16名が大朝公民館に集合し、事前学習を行いました。

ゴギは、イワナの仲間であり、頭部の瞳大の白い斑紋が特徴です。中国地方の標高700～900メートルの冷たい渓流に生息しています。警戒心が強く、普段はあまり姿が見られませんが、繁殖シーズンは比較的に見えやすくなるそうです。「幻の魚」とも呼ばれており、生息環境の悪化やアマゴやヤマメの放流等により、個体数が減少し、広島県では絶滅危惧Ⅰ類に選定されていることを聞きました。

続いて、ゴギの繁殖の様子をビデオで視聴しました。オスとメスがペアになって泳いでいる様子の他に、産卵後にすぐ砂をかけず、周辺をゆらゆらと泳ぐ場面が見られました。内藤先生によると、これは「舞の行動」と呼ばれ、卵の全てに精子を行き渡らせたり、卵が流されないように、小石の隙間に入り込ませるための行動だと考えられているそうです。

事前学習の後は、ゴギが生息する山中まで車で移動し、観察を行いました。小雨で心配されていた川の濁りもなく、しっかりと観察することができました。

まずは、遠くからそっと姿を確認します。ゴギは砂の溜まる、流れの淀んだ場所で繁殖を行うため、川の上からでもその姿を確認できます。警戒されないようにゆっくりと近づき、肉眼でも姿を見られる位置まで来ると、参加者は、ペアで泳いでいる様子を撮影したり、川底の砂を掘って産卵床を作る姿を双眼鏡で観察する等、思い思いにゴギとのひと時を過ごしました。

この後、別の場所でもゴギの繁殖の様子を確認し、まとめをして解散となりました。解散後も質問や意見交換が行われ、ゴギを取り巻く環境や、どの様に保護していけばよいのか、考える機会となった観察会になりました。

（ありみつまさかず）



集合場所の大朝公民館で、ゴギについて事前学習を行う。



頭部に瞳大の白い斑紋があることを、スライドを使っでの解説があった。



繁殖の様子を映像で視聴する。左側にいるメスが、川底に作った産卵床に尻びれを差し込み、出来具合を確認している。



離れた場所からゴギを探す。内藤先生が指し示す先には・・・



観察会終了後も、参加者からの質問や意見交換などが相次いだ。



ペアで泳ぐゴギを発見！

【みなさんの印象に残った物】

「ゴギの産卵行動について、解説してくださったので、勉強になった」「産卵シーンのビデオ」「ゴギの繁殖行動が見れたこと」「ビデオを見たこと」「魚の呼び方が、地域によって違うということ」「ゴギの産卵の映像をじっくりとみれたこと」「産卵シーンを映像でも見る事ができたこと」「めずらしい魚だと思っていましたが、意外に歴史的には、人の生活と関係が深いことが分かりました。勉強になりました」「近年、尺ゴギが見れなくなった」「ゴギの知識が深まって、充実しておりました」「3年ぶりにゴギを見れた事」「ビデオで見て、とても良く解った。説明もとても良い」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「ゴギの生態について、詳しく解説していただいたので、ゴギに対する知識が深まった」「貴重な動画を見せていただき、ありがとうございました」「とても分かりやすかったです」「説明が分かりやすかった」「映像に合わせて詳しい解説をしていただいたので、とても分かりやすく面白かったです」「ゴギの貴重性、生態を合わせて学ぶことができた」「種や、人との関わりなど、生物多様性の問題を身近に感じられ、勉強になりました」「2年続けて雨天となりましたが、生態についてとても勉強になりました」「来る度に知識が深まっております」



ゴギを驚かせないように、少人数で交互に観察する。

観 察 会 報 告

●八幡高原の野鳥観察会

開催日時：2014年11月16日（日）9:00

講師：上野吉雄

青空が見え隠れする天候の下、23名が高原の自然館に集合し、八幡高原の野鳥観察会が実施されました。今回の講師は、野鳥の専門家である上野吉雄先生です。霧ヶ谷湿原や田園、尾崎沼湿原を巡り、この時期に見られる冬鳥や、留鳥を観察します。

最初に霧ヶ谷湿原へ向かいました。身近な冬鳥のアトリの他に、留鳥のシジュウカラを観察しました。例年なら群れで行動するシジュウカラですが、ここでは2羽の確認となりました。この時期に見られる小鳥の留鳥の7～8割が今年孵化した幼鳥であるが、夏の長雨の影響で餌不足となり、雛の大半が成長できなかったのではないかと、上野先生が話されました。

場所を移動しようとした矢先、上野先生がベニマシコの姿を発見しました。湿原から奥まった場所で、ヨモギの実を食べている様子を観察しました。このような不意の遭遇があるのも野鳥観察会の楽しみの1つです。

続いて、田園での観察です。近くに敷設してある電線を確認していると、1つの群れに注目が集まりました。シラガホオジロです！ホオジロ類で最も大きく、その名の通り、頭頂部が白いことが特徴です。八幡には冬鳥として飛来し、雪が積もるまでの間のみ確認されることを上野先生が解説されました。オス同士で追いかかけあったり、田んぼに降り、落ち穂を食べている様子を、観察しました。この他に、上空を旋回しながら上昇するハイタカや、聖湖に向けて移動中と思われる、カワウの姿も見られました。

最後に、尾崎沼湿原の溜め池に向かいます。ゆったりと泳ぐコガモの姿や、溜め池周辺では、日本で最も小さな鳥であるキクイタダキの鳴き声を堪能しました。

観察の後は鳥合わせとまとめを行い、今回の観察会では、28種類の野鳥が確認されたことを報告しました。また、レンジャク類の飛来がまだ確認されていないこと等、例年と異なる点も話され、尽きない話題に名残惜しさを感じながら、観察会を終えました。

（ありみつますかず）



霧ヶ谷湿原で観察を始める。ススキやヨモギ等の間を移動しながら採餌するので、フィールドスコープより、双眼鏡の方が観察しやすいことを聞いた。



アトリの特徴を図鑑で確認。街中でも見られる身近な冬鳥であることを、上野先生が解説された。



続いて田園での観察。群れで電線に留まっている。シラガホオジロやカワラヒワを観察した。



上空を飛ぶハイタカ。よく見かけるトビとは尾羽の形が違うことが確認できた。



最後に鳥合わせを行う，それぞれ観察したものを報告し合って，28種の野鳥が確認された。



尾崎沼湿原の堤から溜め池に來ているカモ類を探す。

【みなさんの印象に残った物】

「シラガホオジロを観察できたこと(9)」「カラ類等が夏の雨で雛が死んだこと。ホザキヤドリギ」「図鑑や、望遠鏡など持っている方が見せてくださったので、よく見えました」「スズメと思っていたものが、色々な小鳥だったのが楽しかったです」「シラガホオジロが見れたこと、ハンノキを知ったこと」「双眼鏡だけではなかなか見れないので、今度はフィールドスコープを持って来ようと思った。」「アトリが身近に見れたこと」「ハイタカが近くで見られたこと(3)」「ベニヒワ、オオマシコがいるという事を聞いた」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「見られる場所、好きな食べ物等、鳥の名前がわかってよかった」「鳥のことだけでなく、いろいろな自然のことを教えてもらえてよかった」「初めて野鳥観察会に参加しましたが、とても楽しかったです」「レンジャク、ベニマシコを期待していたので残念」「今年は小鳥が少ないことを知りました」「また参加したいです」「こんなに多種の鳥がいるとは思いませんでした」「いろいろ勉強になりました」「ホオジロ属のメスの識別は難しい」「楽しい探鳥会でした(2)」「いろんな鳥に出会えた」「八幡の豊かさを今年も感じた」「シラガホオジロは初めて見ました」「毎年、シラガホオジロを楽しみにしています(2)」「とても良かったです」「カラ類が少なくて残念でした」



対岸近くを泳ぐコガモの群れ。早々に水中に潜ってしまったが、カイツブリも確認できた。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬を生きる動物の生態

開催日時：2015年1月17日（土）10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、双眼鏡、スノーシュー・かんじき

定員数：30名

参加費：無料（広島県生物多様性普及啓発人材育成事業の支援を受けて実施します）

レンタル：かんじき 400円、スノーシュー 1,000円

※ 数に限りがありますので、事前にご予約下さい。

雪に閉ざされた八幡高原を、動物たちの痕跡を探して歩きます。雪の上をよく見ると、足跡や食痕などから、どんな動物が活動しているのかが分かります。暖かい服装と、雪の上を歩く為のスノーシューやかんじきをご用意下さい。

● 雪原のトレッキング

開催日時：2015年2月8日（日）10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、双眼鏡、スノーシュー・かんじき

定員数：30名

参加費：一般 300円、賛助会員 100円

正会員・中学生以下は無料

レンタル：かんじき 400円、スノーシュー 1,000円

※ 数に限りがありますので、事前にご予約下さい。

真冬の八幡高原はどんな姿を見せてくれるのか、スノーシューやかんじきを履いて歩いてみましょう。動物達の足跡や食痕等のフィールドサインの他、ユキグロカワゲラやトビムシ等の雪上で生活するユキムシも探してみましょう。

● 早春のトレッキング

開催日時：2015年3月7日（土）10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、双眼鏡（スノーシュー・かんじき）

定員数：30名

参加費：一般 300円、賛助会員 100円

正会員・中学生以下は無料

（レンタル：かんじき 400円、スノーシュー 1,000円）

※ 数に限りがありますので、事前にご予約下さい。

厳しかった冬が過ぎ、八幡にも春の兆しが見られる時期です。春を待つ植物や動物達の姿を観察しましょう。冬と春の両方を感じられる、この時期ならではのトレッキングです。雪が残っている場合は、スノーシューやかんじきをご用意ください。



※ 冬期の観察会は、大雪等の悪天候により、中止になる場合があります。連絡が取れるよう、必ず事前の申し込みをお願いします。

自然館の引越作業が終わり、一息つくつと、いつの間にやら12月になっていました。月初めには、雪が降り積もり、いよいよ冬本番といったところでしょうか。晴れた夜は庭に出て、積雪の反射光で普段より明るくなった夜を楽しんでいます。今年も残りあとわずか、年末年始を気持ち良く過ごせるように、1日1日を大事に過ごして行きたいですね。（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info